



発行所
弘前市馬屋町6の2
青森県立弘前工業
高等学校同窓会

印刷所
やまと印刷株式会社



QRコード



継往開来

同窓会会長

吉澤 俊 寿

同窓会の皆様方には同窓会活動に多大なご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

とは何かを深く考えさせられました。

一方、母校の生徒たちは、様々な分野で素晴らしい活躍を見せてくれました。バレーボール部が見事、県高校総体で優勝を飾ったほか、ボクシング部の松田選手が全国大会で二位入賞という快挙を成し遂げました。また、多くの生徒たちも、それぞれが持ち前の才能を発揮し、ものづくりコンテストや競技大会にて素晴らしい成果を収めました。これらの輝かしい活躍は、私たち卒業生の誇りであり、後輩たちの未来がますます明るいものであることを感じます。

令和五年度 会務報告

令和五年

4月5日 会計監査（本校 第2応接室）

4月10日 正副会長会議（本校 第1応接室）

5月10日 役員会議（弘前パークホテル）

7月1日 令和五年度総会（弘前パークホテル）

令和六年

2月29日 会報63号発行

2月29日 令和五年度卒業生同窓会入会式（新入会員 77名）

3月10日 会報郵送（各支部他9所）

とを確信させてくれます。

私たちの母校は、「品性は力なり」「勤労は使命なり」「常に汝の最善をつくせ」の校訓を掲げ、文武両道の精神を大切にしてきました。この伝統を受け継ぎ、生徒たちは日々努力を重ねています。

タイトルに掲げた「継往開来」とは、過去の伝統を継承しながら、新しい時代を切り開いていくという意味です。私たちの母校は、まさにこの言葉通り、長い



伝統を紡いで

校長

工藤 和 樹

同窓生の皆様には、本校の教育活動に対し日頃から格段のご協力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度は、本部同窓会総会並びに全国の同窓会支部総会が盛大に開催されたことに感謝申し上げます。また、多数の同窓生とお会いすることができ感謝しております。各学科の活躍をいっ

つとめて、本校の歴史と伝統は不変であり、それを引き継ぎ、職責の重さに身が引き締まる思いで日々過ごしております。

皆様のご厚情をいただき、令和六年度末を迎える時期まで歩を進めることができたことに、重ねて感謝申し上げます。

さて、本会報には今年度の生徒の活動を掲載しておりますので、部活動についてはそちらを参照ください。各学科の活躍をいっつとめて、本校の歴史と伝統は不変であり、それを引き継ぎ、職責の重さに身が引き締まる思いで日々過ごしております。

歴史と伝統を誇りながらも、常に革新を恐れず、新しいことに挑戦し続けてきました。そして、私たち卒業生もまた、母校の精神を胸に、それぞれの場所でも活躍し、社会に貢献していくことを願っております。

今後も同窓生の皆様方のご協力を賜りながら、会長の任を務めてまいりますので、何卒よろしくお願い致します。

台湾交流も引き続き行われ、弘工祭では、台湾の大安高級工業職業学校から二十数名の来校者があり、そこでは情報技術科の国際イノベーションコンテストで発表し四位入賞となった内容を英語でプレゼンテーションしたり、模擬店などの買い物にスマホの翻訳機能を活用して交流を深めたりしている姿が見受けられました。



令和6年度
青森県立弘前工業高等学校同窓会総会・交流会



令和6年度
青森県立弘前工業高等学校同窓会総会・交流会



令和6年度
青森県立弘前工業高等学校同窓会総会・交流会

令和六年度同窓会総会・交流会

令和六年度同窓会総会（の歓迎セレモニーを経て、は去る七月六日（土）に各支部長及び役員、特別・一般役員（総計百七十一名）の出席を得て盛大に開催されました。

総会は次第によつてすみめられ、議案も滞りなく承認され、最後に新入会員交流会は恒例のアトラクションや豪華景品の抽選会と盛りだくさんで予定時間終了まで大いに盛り上がりました。

最後に、福士晃昭代表幹事から次年度の清野眞由美代表幹事に同窓会旗が手渡され引継ぎが行われました。

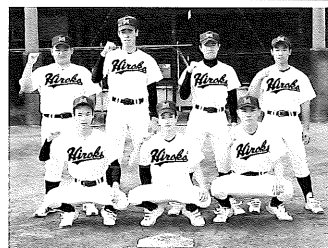
母校だより

バレーボール部

- ◎春季大会 優勝
- ◎高校総体 優勝
- ◎その他の夏季大会 青森県代表決定戦 優勝
- ◎新人大会 優勝

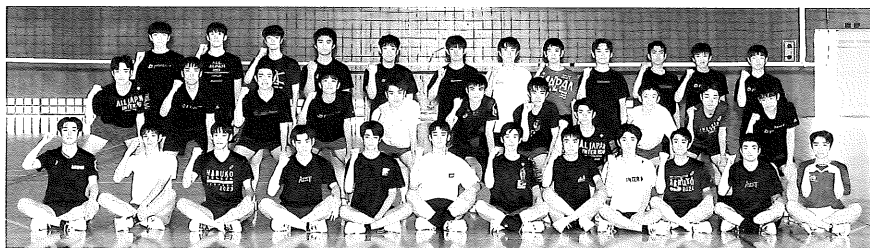
硬式野球部

- ◎秋季県大会 第3位



バスケットボール部

- ◎新人大会 ベスト8



陸上競技部

- ◎春季大会
男子棒高跳び 第2位 山本 快生
男子走高跳び 第3位 長尾 侑磨
男子走高跳び 第5位 葛西 岳臣
◎高校総体
男子走高跳び 第1位 長尾 侑磨
男子棒高跳び 第2位 葛西 岳臣
男子棒高跳び 第1位 山本 快生
男子走幅跳び 第3位 長尾 侑磨
男子三段跳び 第3位 長尾 侑磨
男子5000m競歩 第6位 外崎 智大



男子フィールド競技

- 男子総合 第2位
◎新人大会 第6位
男子やり投げ 第6位 浅利 謙信
◎秋季大会
男子棒高跳び 第1位 山本 快生
男子5000m競歩 第5位 外崎 智大
男子走高跳び 第4位 長尾 侑磨
男子ハンマー投げ 第6位 葛西 岳臣
◎東北総体
走高跳び 第8位 藤田 拓海
走高跳び 第8位 長尾 侑磨

軟式野球部

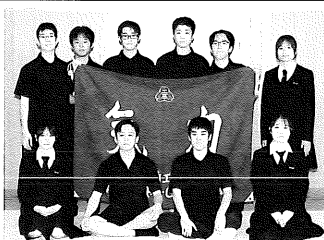
- ◎高校総体 第2位
◎全国選手権青森大会 弘工4-0弘高



新体操部

- ◎高校総体
男子団体 第2位
男子学校対抗 第3位

◎新人大会



バドミントン部

- ◎春季大会
男子学校対抗 ベスト8
◎新人大会
男子学校対抗 第3位

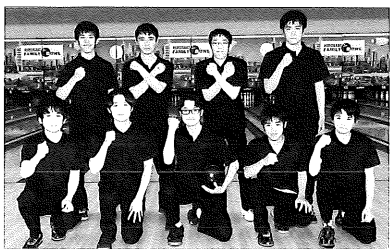
◎高校総体

- 学校対抗戦 第4位
2人チーム戦 第5位 富澤 蒼空
◎その他の夏季大会 文部科学大臣杯 2人チーム戦 第2位 佐藤 愛羅
◎新人大会
学校対抗戦 第1位
2人チーム戦 第1位 佐藤 愛羅
第2位 富澤 蒼空
◎高校総体
男子1部 ライト級 第1位 村井 乃亜
ウエルター級 第2位 岩淵 昂也
ライトウエルター級 第2位 福士 璃人
ライト級 第3位 外崎 洗仁
ウエルター級 第3位 渡谷 京明
ミドル級 第3位 成田 大河
女子1部 フライ級 第1位 村井 乃亜
女子2部 ライト級 第1位 外崎 洗仁
第2位 成田 大河
第3位 松田 佳大



ボウリング部

- ◎春季大会
学校対抗戦 第3位
2人チーム戦 第3位 三上 倅典
個人戦 第6位 成田 侑経



ボクシング部

- ◎春季大会
男子1部 ライトウエルター級 第1位 松田 佳大
ウエルター級 第2位 直井 我晃

- ◎新人大会
学校対抗1部 第2位
男子1部 ライト級 第1位 福士 璃人
ライトウエルター級 第2位 古川 瑛斗
ウエルター級 第2位 今井 峰海
2部バンタム級 第2位 渡邊 成世
◎第35回全国高等学校ボクシング選抜大会兼JOCジュニアオリンピックカップ大会
男子ライト級 第2位 松田 佳大



登山部

- ◎春季大会
登山読図 最優秀賞 吹田 大知
優秀賞 五十嵐 洗成
◎高校総体
学校対抗 第4位
団体男子 生活技術 第3位



◎春季大会
男子個人73kg級
第3位 成田 昊雅
◎秋季・新人大会
男子無段90kg超級
第2位 駒井敬太郎

柔道部

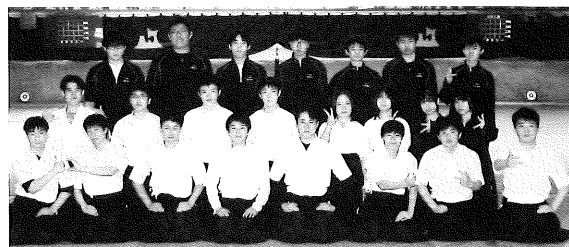


◎秋季大会
パティ対抗 第5位
弘前工業高等学校A
パティ対抗 第6位
弘前工業高等学校B

個人オープン
読図技術
第3位 五十嵐光成
板垣 武流
須藤 利方

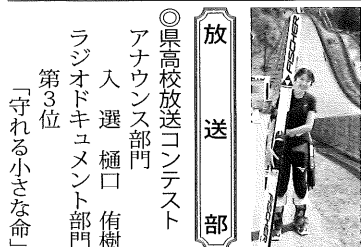


テニス部



◎春季大会
男子団体 第2位

弓道部



放送部

◎県高校放送コンテスト
アナウンス部門
入選 樋口 侑樹
ラジオドキュメント部門
第3位
「守れる小さな命」

◎第74回全国高等学校ス
キー大会
スペシャルジャンプ女子組
第4位 藤元 彩子



サッカー部

◎高校総体
男子団体 ベスト8
男子ダブルス
ベスト8 木村 風雅
杉澤 凛
◎東北ジュニアテニス選手権
男子ダブルス
ベスト8 木村 風雅
杉澤 凛
男子シングルス
ベスト16 木村 風雅



吹奏楽部



◎県高校総合文化祭将棋部
門大会
男子個人戦B組
無段の部
第3位 工藤 謙信

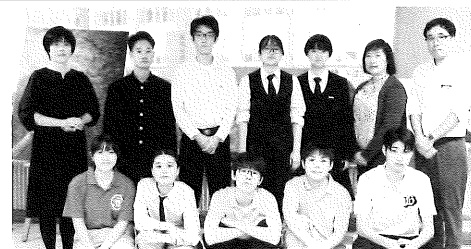
将棋部



◎総合文化祭放送部門
ラジオ番組部門
優秀賞「青の屋台」
◎県高校キャンペーン作品
コンテスト
ラジオキャンペーン部門
第1位「りんご」



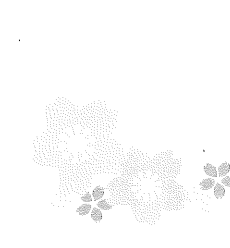
◎第31回青森県大会
優勝
チーム Sphene



◎青森県吹奏楽コンクール
弘前地区大会
高等学校小編成の部
金賞
◎青森県吹奏楽コンクール
青森県大会
高等学校小編成の部
銅賞

美術部

◎青森県吹奏楽コンクール
弘前地区大会
高等学校小編成の部
金賞
◎青森県吹奏楽コンクール
青森県大会
高等学校小編成の部
銅賞



◎第32回全国大会栃木大会
準決勝進出
チーム Sphene
◎電子回路組立部門
第2位 板垣 武流
◎第19回若者
ものづくり競技大会
コンテスト青森大会
◎「高校生ものづくり
コンテスト」青森大会
第4位
「シルバースターン」
高木 慈永
石沢 遼都
工藤 蓮羽
佐川 天星
鳥居凛太郎
◎「インターネットワークシス
テム管理職種
敢闘賞 奈良 卓
◎ロボットソフト組込み職種
出場 相川 善明
◎グラフィックデザイン職種
出場 小山内 遊
◎ウェブデザイン職種
出場 河田 健社

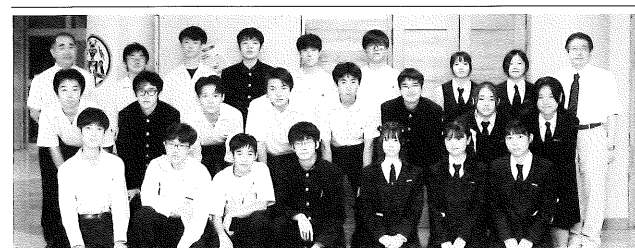
◎第32回全国大会栃木大会
準決勝進出
チーム Sphene
◎電子回路組立部門
第2位 板垣 武流
◎第19回若者
ものづくり競技大会
コンテスト青森大会
◎「高校生ものづくり
コンテスト」青森大会
第4位
「シルバースターン」
高木 慈永
石沢 遼都
工藤 蓮羽
佐川 天星
鳥居凛太郎

電子科

◎第32回全国大会栃木大会
準決勝進出
チーム Sphene
◎電子回路組立部門
第2位 板垣 武流
◎第19回若者
ものづくり競技大会
コンテスト青森大会
◎「高校生ものづくり
コンテスト」青森大会
第4位
「シルバースターン」
高木 慈永
石沢 遼都
工藤 蓮羽
佐川 天星
鳥居凛太郎

◎第32回全国大会栃木大会
準決勝進出
チーム Sphene
◎電子回路組立部門
第2位 板垣 武流
◎第19回若者
ものづくり競技大会
コンテスト青森大会
◎「高校生ものづくり
コンテスト」青森大会
第4位
「シルバースターン」
高木 慈永
石沢 遼都
工藤 蓮羽
佐川 天星
鳥居凛太郎

◎第32回全国大会栃木大会
準決勝進出
チーム Sphene
◎電子回路組立部門
第2位 板垣 武流
◎第19回若者
ものづくり競技大会
コンテスト青森大会
◎「高校生ものづくり
コンテスト」青森大会
第4位
「シルバースターン」
高木 慈永
石沢 遼都
工藤 蓮羽
佐川 天星
鳥居凛太郎



写真部



◎第21回星槎道都大学美術
学部高校生住宅設計コン
クール
佳作 鎌田 桜羅

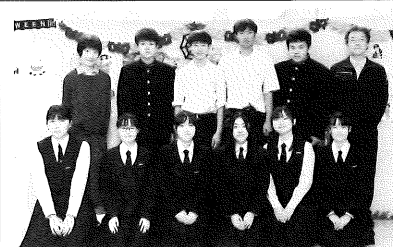
建築研究部



JRC部



家庭クラブ



漫画研究部

関西支部

焼け野原となった街並みも復興の音と希望が満ちる秋空の屋下がり、神戸港の遊覧船や海上ホテル、神戶港の遊覧船や海上ホテルを見渡す波止場。賑わいを取り戻した「モザイク」のレストランで昼餐。神戸港の復旧半ばの情景に望みを託して（現）エスカル神戸Ⅱに移動しました。

昔から神戸に寄港する船員達が宿泊するリズナブルで好評を博し、歴史の重みが感じられる施設です。総会開始時刻になっても御大の小野前

です。日常の生活を取り戻すことはできるのかと疑心暗鬼になりながらレキの中を進むと、焼け野原の中に焼け焦がれた一軒家を見つけ、その住民さんから「この建物は耐火構造（ブロック製）で、窓火構造仕様にしたことで外観だけを止めていただけなんだ」と憔悴した表情でお話されていたことが、三十年後の今でもシッカリと脳裏にこびり付き、人間のチカラのひき弱さと平常時の備えの大切さ

支部長の姿が見えず、菅原支部長が体調を気遣い迎えに体調万全の様子に一同安堵。今回からは懇談の前に勉強会を行うということで、阪神高速道路湾岸五号線の「吊橋の橋脚工事で副所長を務めている中谷さんによる「吊橋の概要」と苦勞話をご紹介。技術者集団は真剣な眼差しで聞きた入り、夜遅くまで盛り上がりつつありました。冥席も徐々にな影もなくなり、清々しい朝を迎えていました。

翌日は神戸市長田区の震災資料館で焼け野原となった被災地の悲惨な状況をシッカリと脳裏に焼き付け、後世に伝える使命を担い、技術者集団が歩き出しました。

報道等で目にした景色とは一変し、まるで戦場の真つ只中に居るのかと錯覚するほどです。日常の生活を取り戻すことはできるのかと疑心暗鬼になりながらガレキの中に潜るむと、焼け野原の中に焼け焦がれた一軒家を見つけ、その住民さんから「この建物は耐火構造（ブロック製）で、窓だけを止めた以外はなんでも壊れたら表情で話さされていましたが、三十年後の今でもシッカリと脳裏にこびり付き、人間のチカラのひびき弱さと平時の備えの大切さを痛感させられました。

全ての會員が罹災した状況に鑑み、一度は支部総会を止めようと考えましたが、復興に向けて頑張っている姿を皆さんに伝えることが最も大事なことを考え、交通事情も

不安定な最中、遠来よりご臨席いただき、計り知れない重気と、激励の心に触れることが出来ました。

翌年は、いよいよ「三都」の締め括り『奈良』でお会いすることになります。

関西支部は、単調に年齢を重ねるばかりで、外出も儘ならない環境下にあります。皆様方のご理解を賜り、温かい応援にえられるよう維持して参る所存です。

（関西支部長 木田貞明）

北五支部



日本全国、弘前工業高校ファンの皆様こんにちは。立佞武多（たちねぶた）と太宰治と吉幾三のふるさとがある北五支部です。

令和六年度北五支部総会及び懇親会を令和六年六月二十一日（金）ホテルサンルート五所川原において、ご来賓に、同窓会本部より木村廣美監事、学校より工藤校長先生、渉外部の三戸先生のご臨席を賜り開催しました。

総会終了後の懇親会では、ご来賓の皆様より母校や同窓会の近況並びに活動状況について詳しくご報告をいただきました。そして恒例となりました。

した抽選会を開催。当選者からは景品の引取とともに近況報告をいただき、最後は校歌斉唱による和やかな雰囲気の中で親睦を深める事が出来ました。

最後にありますが、母校並びに同窓会のご活躍に敬意を表しますとともに、益々のご発展と、会員の皆様のご健康とご活躍を心から祈念申し上げます。

仙
台
支
部

今年度より、会津前支部長の後任として同窓会支部運営に関わる事になったのですが、会計含め前幹事の皆さんにはそのまま留任して頂いたの、スムーズな引継ぎが出来るた事を支部役員の皆に感謝いたします。

今年度の支部総会にあたり
七月の幹事会で、多くの方に
参加して頂く為には同窓会活
動や母校に関する情報を発信
して、皆に興味を持ってもら
う事が必要だね、と言う事で
A5サイズ八ページの『仙台で
支部便り』を作成して総会の
案内と共に送付しました。



活動に関わる連絡は不要と回答した方を除いた五十六名のの方に送付した所、二十三名の方に参加希望の返信があり、十一月二十八日に弘前より船水先生に相談役・工藤校長・三戸先生に来て頂き、有意義で楽しかった総会が開催できた事は、幹事会一同ホッとしたところでした。(ちなみに乾杯酒は六花造の酒造の杜業・懇親会酒として三浦酒造の豊益・松緑酒造の六根を造意した)

仙台支部便りを作成するにあたり、①母校の歴史、②同窓生の活躍の二本は欠かせないので色々と資料収集していいななかで、私自身知らなかつた事だらけだったことが判明、この資料作成の数か月間、私は貴重な時間を持たせて頂いた気がします。(その中でもラグビー部・計数部・重量挙げ部などが廃部になっていたことは、ラグビー部卒業の私としては残念至極でした。)

追伸 と言う事ではないが、昨年の同窓会本部総会が開催された七月六日に、弘前からラグビーチーム『弘前サクラオーバルズ』のクラブハウスのラグビーの精神である『自由と多様性』を表現した私の木彫作品『Viva・Oral』を寄贈させて頂いたので、何かのついでにさいでもお立ち寄り頂ければ幸いです。(ちなみに屋内練習場とクラブハウスは田倉館の川部にある)

(仙台支部長 福土良一)

盛岡支部

盛岡支部は昭和三十九年四月に発足し、令和六年に六十周年の節目を迎えることができました。長年に亘つて支部活動を支えてきていただいた先輩と会員の皆様、そして本

盛岡支部

盛岡支部は昭和三十九年四月に発足し、令和六年に六十年の節目を迎えることができました。長年に亘って支部活動を支えてきていただいた先輩と会員の皆様、そして本

部にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。



この記念すべき年となった昨年の令和六年十月十二日に支部総会と交流会を盛岡市内で支部行き付けの店「どじょう」を会場に開催しました。当日は支部会員七名と本部から北畠副会長、工藤校長先生、五十嵐渉外部副主任をお迎えし十名での開催となりました。

総会では第一号議案の活動報告から六件の議案を手短かに審議していただき全てご承認をいただきましたが、支部活動の維持活性化のため、より若い世代との交流機会を一つでも多く創ることに努め、来年度の活動報告に加えることができればいいと考えております。

引き続き行った交流会は、盛岡の郷土料理「芋の子汁」をメインにした店の母ちゃんの手作り料理を肴に、岩手ちゃん津軽の地酒を堪能しつつ、恒例の自己紹介へと進み、それぞれの貴重なご経験、近況や現在の思いを久しぶりに熱く語っていただきました。

ある先輩からは毎年参加することをとに



三八支部

かく楽しみにしているということ、元会長は平成九年に解体された円形体育館が新築竣功した昭和三十三年に配られた建物の骨組みを描いた手ぬぐいを持参してください、皆で校舎への思いを巡らすことができたことなど、各自の持ち時間超過にハラハラしつつも、本部の方々が翌日の東京支部総会に参加されるため盛岡駅に向かなければならぬというタイムリミットまで何となく校歌斉唱をやりきり、無事盛会のうちに終了することができました。

「三」
三
八
支
部

行い、普段の生活が漸く戻ってきたような気がしています
が、まだ安心できない状況が
続いている中で、今年も七月
二十三日（金）十八時から市
内「魚や銀翠」で令和六年度
支部総会を開催しました。

参加者は、支部から十四名、本部から忙し中、幹事の木村様、渉外部長の三戸様、また、学校からは根城教師様にご出席いただきました。議案に則り議事が進行し、皆様方から審議いただき無事終了いたしました。

議事終了後、記念写真を撮影し懇親会に移行しました。校歌斉唱から始まり、ご来賓からのご挨拶や本部の活動報告をいただき、本校から活動報告をいただき、本校生徒の活躍を再確認し会員一同嬉しく

思っております。

三八支部は、二年前位に若手が久しぶりに一名入会していただきましたが、会員拡大に向け努力はしているものの中々ままならない状況が続いており、高齢化が進み参加メンバーも固定化するともに限界集落化しているのが現状です。

引き続き、三八支部の継続を旨指し新規会員の拡大に努力し新風を取り入れて参りたいと思っております。引き続き、本部のご支援を賜りたいと思っております。

暗話になりましたが、親会では大変盛り上がり、次会では終わらず二次会へもまた山参加していただきました。

新幹線が新青森まで開業し、便利になるにつれ、本部から来ていただいた方々が日帰りとなっており、もう少し親類を深めたいと思つていまして、来年は是非とも一泊ですていただければと思う次第です。

長くなりましたが、令和十年度も総会が開催できるよう努力して参りますのでよろしくお願いするとともに、同窓会の皆様と本校の益々のご発展・ご活躍を祈念申し上げます。

弘前工業高等学校同窓会
三八支部総会 2024.7.23

三八支部長 長尾憲彦



東京支部

令和六年度東京支部総会懇親会は、二〇二〇年以降コロナ禍で未開催でした。役員会の開催を決定し、令和六年度の総会は会場探しから始まりまし

た。市ヶ谷・駒込・赤坂などの会場を当たった中で最終的に大手町サンケイビルに決まりました。日曜に会員、来賓・旧担任の先生方や今年三月卒業の新人会員十四名を含め五十余名の出席により開催されました。

総会に先立ち、宇野副支部長（電子科四十四年卒）が同窓会東京支部との関わりを紹介してもらい総会が始まりました。

総会では、亡くなられた物故会員への黙祷が捧げられた後、戸田支部長から「今年は前々支部長の相澤先輩が作ってくれた横断幕を見ながら関わりがありました。来賓の皆様とも語り合い親交を深めたと思います」と、挨拶がありました。事務局から令和元年度事業や会計決算及び令和六年度の事業計画予算報告（案）などあり、原案通り承認されました。

北畠昌夫同窓会副会長、新任の工藤和樹学校長から同窓会・母校の近況等詳しくご紹介をいただいた後、恒例の新人会員の自己紹介では、先輩諸兄から励ましの声を掛けられていました。

閉会は松川副支部長挨拶のあと東京青森県高校同窓会連合会八木会長による応援エールを披露して頂き、最後に「フレンドリー・弘工」のエン

ルで盛り上がり無事閉会となりました。遠方よりご臨席賜りましたご来賓・会員の皆様には感謝申し上げます。

最後になりますが、同窓会母体の益々のご発展と、会員皆様の健康とご活躍を心より祈念申し上げます。有難うございました。

（東京支部長 戸田則男、事務局 吹田 豊）



東青支部

令和六年度東青支部の交流会は十月五日（土）午後六時から青森市「アスカ」にお

いて、ご来賓に本部同窓会から木村監事、学校より工藤校長先生、渉外部の三戸先生の

ご出席を賜り東青支部会員三十七名の出席のもと開催されました。支部の活動報告に先

立ち、ご逝去されました方々に対し追悼の意を表して黙祷を捧げました。

交流会では前田支部長、ご来賓の木村同窓会監事の挨拶に続き、工藤校長先生からは

ご挨拶の中で七月六日に弘前市で開催された同窓会本部の活動状況や母校健司の学

業、スポーツ等多方面にわたる活躍について報告をいただきました。

今年度から気軽に若手同窓生の参加を促すべく「交流会」と銘打ち、服装も軽装とし、



会の内容も楽しめるものを中心に世代を超えた交流が出来るよう企画いたしました。

交流会では三戸先生から弘工健児の活動状況を映像により詳しく紹介していただき大変好評でした。交流会での余

興として今回は青森県を拠点に活躍するローカルタレント「メンソール川端」による歌

謡や漫談があり大いに盛り上がり会員の親睦を深めることが出来ました。各支部とも共

通課題である会員の高齢化と出席者数の減少にともない皆様に声掛けをして行きたいと思

います。また交流会開催にあたり協賛していただいた十

九社の企業様に感謝いたします。有難うございました。

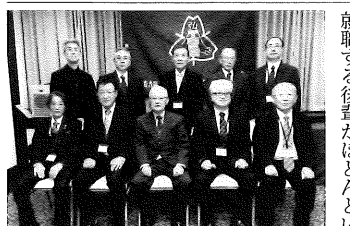
「世界の豪雪都市」の異名もある青森市は十二月二十八

日から一月五日までの九日間

に観測された青森市の最大積雪値一三九センチは記録が残

る明治二十六年以降の一三一年間で最も多かったとのこと

です。青森に雪が多く降る要因を尋ねると、岩木山と八甲田山系の存在で岩木山と八甲



第65回 弘工高同窓会東青支部総会 令和6年4月24日

北海道支部

北海道支部です。令和六年四月二十四日、第

五十五回北海道支部総会を開催しました。

本部の吉澤会長、北城前校長先生、三戸渉外部主任、そ

して東京支部長の戸田様から遠路はるばる駆けつけて下さ

り、コロナ禍を経て令和五年に引き続き、支部総会を開催することが出来ました。

また二次会は、札幌地下鉄で「ゴムタイ」電車の乗り心地を、「一駅先の歓楽街」ス

キア駅近くのスナックで盛り上がりながら、ご来賓の皆様

の活躍で逆に参加させて頂きました。ありがとうございました。

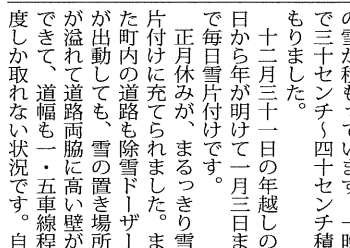
しかし、北海道支部の支部総会参加者は、役員・支部会

員の平均年齢が高いこともあり年々少なくなっています。

支部総会準備の役員会で、参加者を増やすための議論を

しましたが、「近年、北海道に就職する後輩がほとんどいな

い。」ことが話題となりま



第65回 弘工高同窓会東青支部総会 令和6年4月24日

大鰐支部

令和七年の正月です。ここ大鰐町は最近にない大雪に見

舞われております。新聞・テレビ等の報道でも知られてお

りますように、毎日雪との戦いです。朝早くに片付けた雪は、そ

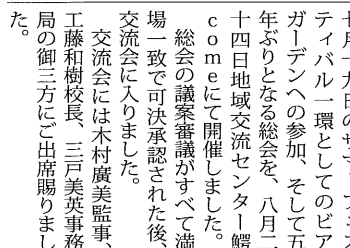
の日のうちにまた同じくくらいの雪が積もっています。一晩で

三十七センチ・四十七センチ積もりました。

十二月三十一日の年越しの日から年が明けて一月三日ま

で毎日雪片が降っています。正月休みが、まるっきり雪

片付けに充てられました。また町内の道路も除雪ドーザー



第65回 弘工高同窓会東青支部総会 令和6年4月24日



第65回 弘工高同窓会東青支部総会 令和6年4月24日

工藤校長先生からは、母校健児の学業、スポーツ等多方面にわたる活躍について詳しく報告いただき、ありがとうございました。又、事務局の三戸先生からは、進路活動状況についてのお話がありまして、就職組公務員組、進学組とすべて生徒の志望する方向へ進む事が出来たと報告がありました。指導・教育の先生方のご尽力に感謝申し上げます。結びに母校並びに同窓会の益々のご隆盛と、会員皆様のご健康・ご活躍を心からお祈り申し上げます。

板柳支部

板柳支部は、現在八十四名で活動を行っております。近年はコロナ禍で行動規制されておりましたが、ようやくコロナも収束をむかえ、四年ぶりとれた藤崎支部と合同での総会・懇親会を令和六年二月二日（金）に多目的ホール「あぶる」において会員・来賓あわせて四十九名の参加で開催することができました。

北畠昌夫同窓会副会長、根城寿彦教頭先生のご臨席を賜り盛大に行われた合同懇親会では、母校及び各支部の近況に耳を傾け和やかに歓談し、会員の皆様と久々の再会で親睦を深めることができました。

余興では恒例となっている大抽選会のほか、板柳のバンド「ザ・シック」に盛り上がる演出がありました。

また、令和六年度は新たに七名の会員が加入しており、今後の支部活動について、若い会員の皆様からも活発な意見提言をいただきました。

（東海支部長 小倉信英）

東海支部

七月に弘前の総会に出席して「東海支部五十周年の総会を令和五年秋に磐田市で開催しました」と報告。

令和六年、関西支部長の木田さんに相談、「今年は、総会、いつ頃」。

関西支部では、都合により今年は休むとの事、うちはどうしようかと思っているうちに日が経ってしまい、年賀状に「今年は休みにさせていただきます」と書き加えました。

東海地方への転入される人も少なく、同窓会の活動も総会も平均年齢があがってきており、総会でも参加し

てもらえる人が少なく、連絡のとれる人数も減ってきています。

（東海支部長 小倉信英）

（東海支部長 小倉信英）

（○印常任理事）

野澤 武	一万円の協力者	佐藤 昭一	佐藤 長幸	北山 幸	今谷 弘	会津 茂光	幸山 忠勝	花田 正喜	相馬 一士	十川 太	七千円の協力者	中村 輝夫	森 俊道	佐々木 國美	五千円の協力者	日景 久吉	片山 雄廣	福田 良一	秋田 谷光廣	北島 昌夫	長尾 廣美	木村 和義	丹藤 明雄	前田 進	山田 誠
A		A	A	A	A	C	C	C	D	E		M	A	C		A	A	A	A	M	C	C	C	C	
29		48	50	55	41	38	50	51	30	52	40	47	37	51		19	42	44	56	49	43	46	51	51	
木村 和照	三千円の協力者	外崎 勇造	奈良岡 隆人	小村 桐伸	木村 誠二	成田 祐二	大久 弘道	菅原 明	相馬 秀則	石澤 伸夫	館山 徹	本間 嘉章	佐藤 六三	三上 純一	佐々木 一男	小田 桐俊治	中畑 肇	外崎 勝康	唐牛 栄子	春藤 英徳	竹内 初男	浅利 能之	白鳥 俊明	三上 正明	松川 進
A		A	A	H	M	M	C	C	C	C	C	C	E	E	B	D	D	D	D						
29		43	1	44	56	47	38	40	39	41	54	56	33	33	44	46	52	54	8						

運営協力費納入依頼趣意書

一、趣 意 同窓会運営協力費の納入により本会財政への援助を図る

二、対象者 本会全会員

三、目標額 特別に定めていません

四、納入額 一人 二千元から

五、納入方法 郵便払込取扱票及び事務局窓口

六、納入先 本会事務局

七、収支報告 次回会報に掲載して報告する

会報についての連絡

同窓会会報は平成24年の発行より全同窓生に送付しております。

今後は学校ホームページでの掲載と希望者のみへの発送となりますのでご了承下さい。

令和7年2月～

S			E	E
H	B	B	R	H
4	51	47	3	13

第18回弘工計数部OB会



第18回 弘工計数部OB会 ～弘工生及び一般参加の皆さんと共に～
令和6年12月1日(日) 於:弘前工業高校会議室

「計算尺を後世に！」 第18回弘工計数部OB会を開催して

弘工計数部OB会事務局 藤田 稔 (A47)

電卓やコンピューターの誕生前、技術者の計算器具として必需品であった「計算尺」。
今では、時代の流れにより絶滅器具となり、その存在を知る人も稀となりました。

計算尺は、約四百年前にイギリスで発明され、日本算、割算、平方根、立方根、三角関数等の計算を魔法のように答えを出してくれるアナログ式の計算器具です。

全盛期には、東京タワーやパリのエッフェル塔の構造設計や様々な技術分野で活用され、スタジオジブリ映画「風立ちぬ」の中で、主人公の堀越二郎が戦闘機ゼロ戦を設計している場面も印象に残ります。

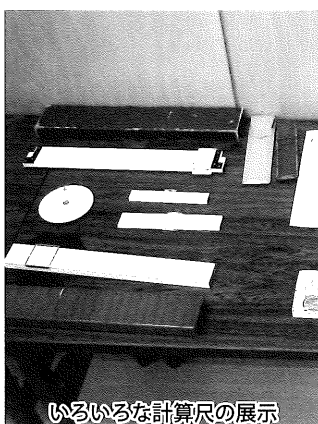
本校では、昭和五十二年頃まで入学と同時に計算尺の購入が推奨されました。

副校長、笹原誠先生(元校長)にご出席を賜り、OB会の秋元憲男会長(現E41)を始め県内外からのメンバー八名、初の試みとして弘工現役生徒(三年生)四名、一般市民二名にも参加をいただき計十六名により開催されました。

午前十時から母校会議室において、実際に計算尺を使用して操作体験を行う他、絶滅危惧商品として計算尺が紹介された、全国放送テレビ番組「久米宏 ニュースステーション」の鑑賞や、OBによる当時の「部活動再現」も実現しました。今回初めて計算尺を手にした弘工生や市民の皆さんは「操作は難しかったけど、慣れたら楽しそう。機会があったらまたやってみたい」と感想を述べてくれました。熱心に説明を聞いて計算尺に取組んでいた

感謝してあります。屋過ぎからは「サンパレス秋田屋」に会場を移し、恩師を囲みながらOB会メンバーによる懇親会を盛大に行い、お互いの近況と次回の企画を話し合うなど大変有意義な会合となりました。

結びに、この度のOB会開催にあたりまして、渉外部の五十嵐治男先生を始め母校のご協力と、運営面において格別のご支援をいただきました弘工高同窓会様に対し、深く感謝を申し上げます。



いろいろな計算尺の展示

計算尺の操作説明



計算尺の操作説明

令和六年二月から令和七年二月までに逝去が判明した会員のご芳名です。
心からご冥福をお祈り申し上げます。

岩平光弘	小山内弘志	酒井賀逸	小寺健治	斎藤文三	木村恒雄
B51	E45	E36	C43	C30	C30

(敬称略) 数字は卒業年、Hは平成、その他は昭和

建築科	木工芸科	工業科	インテリア科	機械科	土木科	電気科	情報技術科	電子機械科	定時制
A	F	T	M	C	B	D	S		

会員計報



参加者全員による計算尺操作 (OB・弘工生・市民)

出席者名簿

氏名	卒年
1 三崎 宜秀	A20
2 笹原 誠	—
3 秋元 憲男	E41
4 吹田 豊	A45
5 藤田 稔	A47
6 小野 正幸	A47
7 新内 清秀	C48
8 齋藤 有二	M49
9 小田桐博文	M49
10 菊地 保	C50
11 岩平 光弘	B51
12 鎌田 桜羅	AR7
13 正地 陽向	AR7
14 奈良龍乃輔	AR7
15 林 悠生	AR7
16 藤田 恵	—
17 坂上 佳枝	—
18 中村 訓子	—

令和6年度 進路状況 () は女子内数

令和7年2月1日現在

在籍数	就 職			進 学			
197 (28)	県 内	県 外	公務員	大 学	短 大	職業能力開発施設	専修学校各種学校
希 望 者 数	49 (3)	82 (16)	12 (1)	40 (5)	1 (0)	2 (0)	11 (3)
内 定 ・ 合 格 者 数	49 (3)	82 (16)	12 (1)	39 (5)	1 (0)	2 (0)	11 (3)
出 願 中 ・ 未 定	0	0	0	1	0	0	0
合 格 率	100%	100%	100%	98%	100%	100%	100%
希 望 者 数 合 計	143 (20)			54 (8)			
全体に対する割合	72.60%			27.40%			

都道府県別 [就職 128名・進学 76名] [人数]

県 名	青 森	北 海 道	岩 手 県	宮 城 県	山 形 県	福 島 県	茨 城 県	栃 木 県	埼 玉 県	千 葉 県	東 京 都	神 奈 川 県	新 潟 県	石 川 県	静 岡 県	愛 知 県	京 都 府	大 阪 府
就 職	53	-	-	18	-	-	1	-	4	11	41	9	-	-	3	1	1	2
進 学	17	2	3	12	2	1	-	1	3	2	4	-	3	1	-	2	1	-
合計 (%)	70 (35.5%)	2	3	30	2	1	1	1	7	13	45	9	3	1	3	3	1	2
127 (64.5%)																		

今年度の進路状況は、コロナ禍前の状況に戻り、多くの企業の来校説明会や見学会を制限のない状態で実施していただき、生徒は積極的な足を運び、自分の進路に真剣に取り組むことができました。

就職組については、売り手市場の状態であり、超氷河期の時からみると生徒に取り組みました。生徒も非常によく頑張りました。多くの生徒は一回目の試験で内定をもらい、大きな喜びを感じていました。企業の方々に感謝の言葉しかないと述べています。ただ、県内希望者より県外希望者が多いことは、地元企業をもっと具体的PRし、地元の活性化につなげていく必要があると思います。

次に公務員組では、学年全体の少人数ではあるが十二名の生徒が合格しました。生徒の努力とあきらめない精神、そして保護者の献身的なサポートがよい結果につながったと思います。

最後に進学組についてです。学年の三割が進学します。志望者の殆どが志望校に合格し生徒の強い頑張りが見られました。また、今年度は、十二名が国立に合格し、生徒及び職員の早い時期からの対策が実った感じがしました。

結び、同窓会の方々にはこの場をお借りして深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬ進路指導へのご支援をお願いし、同様に今後の弘前工業高校同窓会のみならずのご発展と同窓会の皆様のますますのご活躍をご祈念申し上げます。

進路指導部主任
安田清人

卒業生累計

《令和7年3月卒業生含む》

課 程 科	旧 制						新 制				計	
	本 科	第2本科	第2部	選 科	専修科	別 科	全 日 制		定 時 制		男 子	女 子
							男 子	女 子	男 子	女 子		
木 工	156					11					167	
漆 工	43					5					48	
建 築	753	208		15	10		4,007	513			4,993	513
インテリア (木材工芸・工芸)	269			42	9		1,629	1,111	282	45	2,231	1,156
機 械	786	319	76	13	10		4,186	11	654		6,044	11
土 木	438	213					4,393	74			5,044	74
電 気	100						3,648	29	364	7	4,112	36
電 子							2,049	147			2,049	147
情報技術							1,418	460			1,418	460
電子機械							886	21			886	21
工業技術科									133	24	133	24
合 計	2,545	740	76	70	29	16	22,216	2,366	1,433	76	27,125	2,442
3,361 115 24,582 1,509 29,567												

旧制 青森県立工業学校 (明治43年以降)
青森県立弘前工業学校 (昭和10年度以降)

学校からのお知らせ

卒業された皆さんへ 証明書の発行について

本校を卒業され、社会の一員として又は学生として各地で活躍されていると思います。今後、各種試験の受験・免許・資格の取得の機会があると思います。その際に必要となる証明書発行の申請は、左記の要領で本校事務室宛に郵送又は電話で申し込んでください。

なお、FAX・メール等での申し込みは本人確認ができないため、受け付けておりません。

■手続き方法■

左記の4点を事務室宛に一括して提出ください。不備があると証明書の発行ができませんのでご注意ください。

1. 申し込み用紙

申込用紙として、メモ帳・便箋・レポート用紙等に次の項目を記入してください。(様式は自由です)

できれば、(本校ホームページ)から「証明書」をダウンロードしご利用ください。

申込用紙のダウンロード:「証明願」(PDF/Word)

・卒業時の氏名 (英文の証明書を必要とする場合は、ローマ字表記の氏名も記入)

・生年月日

・卒業年月

・卒業学科

・必要な証明書の種類と枚数

郵便番号、住所、電話番号 (証明書の内容について問い合わせる場合があるので、勤務先等日中確実な連絡の取れる電話番号、携帯電話番号)

*特に指定された証明用紙がある場合は、その用紙を同封してください。

2. 返信用封筒 (封筒は長形3号の定形サイズ) ※来校の場合は不要

郵便番号、住所、氏名 (本人宛に限る) を明記し、切手を貼ったもの。

速達を希望する場合は、さらに速達分の切手を加算してください。

3. 発行手数料は、証明書1通につき450円です。(書庫収入証紙で納付)

*収入印紙ではありませんのでお間違いないようにお願いします。

4. 身分証明書 (運転免許証、パスポート、マイナンバーカード (顔写真付きの面のみの写し)

本人からの申請であることを確認するため、「身分証明書の写し」を持参又は同封してください。なお、提出いただいた写しは、法令による場合を除き、証明書発行に係る本人確認以外の目的には使用しません。

証明書の種類

現在、本校で発行している証明書は以下のものです。

- ・卒業証明書 (和文・英文)
- ・成績証明書 (和文・英文)
- ・調査書・進学用・就職用
- ・単位修得証明書

右記以外の証明書を必要とする場合は、事前にお問い合わせください。

〔発行に要する期間〕

来校の場合

土・日・祝日を除く8:30から16:30まで。(来校される前にお電話ください)

郵送の場合

土・日・祝日を除く2日間程度。郵送に要する期間も必要となりますので、余裕をもつて申込みください。

申し込み・お問い合わせ先

〒036-8585 弘前市大字馬屋町6の2 青森県立弘前工業高等学校 事務室 TEL0172-3216241 (受付時間:土・日・祝日を除く8:30から16:30まで)

会員各位の皆様へ

青森県立弘前工業高等学校同窓会は株式会社サトラヘ名簿製作ならびに調査業務・発送業務を委託しております。その際、お預かりする個人情報等は個人情報の保護に関する日本の法令その他の規範を遵守して右記目的の範囲でのみ利用いたします。

詳しくはホームページをご覧ください。